

福岡県労連

KEN ROREN

ZENROREN

2025
4月号
No.219

発行所 福岡県労働組合総連合
〒812-0016 福岡市博多区博多駅南
1-9-8 ケイ・アイビル2F
☎092-433-1833 FAX092-433-1822
編集発行 福岡県労働組合総連合
福岡県労連 検 索



〔定価〕
1部10円



現場の声を訴える医労連

本当の賃上げを 勝ちとる春闘に！

医療現場の苦悩 各地でスト行動

3月13日、福岡県春闘共闘は全国統一回答日の翌日行動に取り組みました。夕方、18時からは博多駅で宣伝行動を行い、20名の参加で、用意した300個のポケットティッシュを配ることができ、充実した宣伝行動になりました。

医労連では、春闘産別統一ストライキに取り組みました。物価高騰の中、ケア労働者の賃上げは置き去りにされており、そのため職員の離職がすすんでおり、さらなる人員不足から医療・介護崩壊が起これない状況となっています。スト決議では「やりがいのないだけではどうにもならないところまで来ている」と悲痛な現場の声が寄せられています。

全医労は2月28日のストライキに引き



20名が集まり博多駅前で宣伝

続き2回目のストライキを行い、一方的に交渉を打ち切ろうとしている機構に対して抗議をおこないました。また県内複数か所でストライキが行われました。福岡県労連からもスト支援を行いました。

労働組合活動で 賃金上がる社会へ

24春闘では中小企業の賃上げ率4%でしたが、消費者物価指数前年比4%上昇、米類にいたっては7%上昇し、生活は改善していません。人員不足から初任給のみ引き上げて全体的には賃金を抑制し「見せかけの賃上げ」となっていたとい

うのが実態です。大企業ではむしろ人件費は下がっており、内部留保は600兆円を超えています。

25春闘回答では、大企業の満額回答と報道されていますが、中小企業の賃上げは厳しくより格差が大きくなり2極化しています。すべての労働者の賃上げのためには下請け単価の適正化や中小企業への支援が必要です。労働条件・賃金をかえることができるのは労働組合だけです。団体交渉で職場を変えた仲間がたくさんいます。労働組合で賃金が上がる社会、公正な社会に変えましょうと訴えました。

3月18日

郵政ストライキ



3月18日郵政ユニオンのストライキ突入集会が天神中央郵便局前で行われました。福岡県労連から三苦議長と渡邊事務局長が参加し、連帯のあいさつをしました。



挨拶する三苦議長

日本郵政グループは6兆円を超える膨大な内部留保を抱えているにもかかわらず、私たちの切実な要求に応えるようとしていません。時給制の契約社員にはゼロ回答です。内部留保の3%で郵政労働者全員に一律の賃上げができます。それどころか夏季冬期休暇の削減など労働条件悪化を行い、同一労働同一賃金と言いつつ非正規職員の待遇を改善するのではなく正規職員の賃金引き下げを行いました。郵政は基幹産業であり、社会的責任を果たし、公正な賃金を実現すべきですと訴えました。

建交労

春闘の幕開け告げる トラックパレード



出発前集会

3月2日、建交労のトラックパレードが開催されました。出発前の集会では、建交労・安部

委員長より「2024年問題でトラックドライバーの労働時間規制が入り、一部では賃金が上がりましたが、物価高騰にはまったく追いつかず、低賃金から人員不足が深刻になっています。実態をアピールしましょう」との挨拶がありました。その後、トラックで隊列を組んで市内を走行して、アピールを行いました。



VOICE

SNSを活用しようということが多いと言われる。SNSは連絡

手段や情報取得する手段としてだけでなく新しいつながりを創出することができ、ツールとして大きな可能性をもっている。労働組合活動の中でもXで当事者の声を伝えたり、反響があり、そこから社会的なアクションが生まれた事例もある。近年では選挙におけるSNSの活用が目立っている。しかしそれで若い世代の政治への関心が高まったのかという疑問が残る。生まれた時からSNSがある世代は様々な問題を抱えている。そういう若い世代が抱えているリアルな問題と今の社会システムを重ね合わせてどんな政策が必要かを考えるためには、意見を尊重し耳を傾けることが重要でないだろうか。それは労働組合活動も同じである。リアルな声を聴くための対話の機会づくりを行い、その成果をSNSで発信して、そこからさらに労働組合活動につなげていく活動をすすめたい。(わ)

公共の再生を考えるシンポジウム

すべての人が豊かに暮らせる社会にするための公共を考える

本稿では、2月9日に開催された「公共の再生を考えるシンポジウム」の内容を2回に分けて採録し、公共の再生について考えます。第1回目は北海学園大学の川村教授の講演内容を掲載しました。2回目の今回は6人のシンポジストからの報告とシンポジウムでの議論の内容の要約を掲載します。

コーディネーター

川村 雅則 教授(北海学園大学)

シンポジスト

水流 彰氏 (国鉄労働組合)
城山 佐和子氏 (福祉保育労組)
米地 輝高氏 (郵政産業ユニオン)
三浦 真也氏 (福岡自治労連)
玖村 徳則氏 (福岡県国公)



川村 一つ目の論点として構造改革がすすんだ結果、そこで働いている人にフォーカスした場合にどういった問題が起きているのかをお話いただきました。



水流氏

ている人たちが来年は続けて構造改革がすすんだ結果、そこで働いている人にフォーカスした場合にどういった問題が起きているのかをお話いただきました。常勤換算方式といつて何人の利用者に對して一人という職員配置の一人分を二人とか三人で分割すると。時間でとらえれば、人が変わっていく中では職員同士のコミュニケーションもできないので物理的にも精神的にもきつくなってきた状態です。

米地 民営化後に急激に非正規化が進みました。小さい地方のセンターでは出勤者が全員非正規職員ということもあつています。

玖村 日本の公務員数はドイツの半分、フランスの三分の一と他国に比べて非常に少ない。賃金は31か国中半分。私の勤務しているところでは11人働いていますが、正規職員は三人。給与では正規職員が平均賃金600万

水流 分割民営化によってJR九州は15000人で発足しましたが、昨年4月で社員数は7576人と半減されています。その減った分は下請け会社に業務移管されて、その労働条件は当然低賃金におかれています。駅はほとんど無人化委託化を続けて、ワンマン運転は最大6両まで拡大しています。それで事故も多発しています。賃金で大きな格差がつくと募集しても人が来ないというところになり安全問題や技術継承の問題につながっていると思います。

城山 福祉は全産業平均に比べて6、7万安い。だから募集しても人が来ないだけではなく今仕事し



玖村氏

に対し業務委託の人は300万以下で働かされています。

川村 新自由主義政治というのは格差構造を利用して進められていく。雇用構造を破壊していくというのが原動力の一つです。それから当然なわけですが、日本の場合は、労働分野の規制力が弱い。一つは法律制度の規制力が弱い、もう一つは労働組合の規制力が弱い。それは労働組合を攻撃して労働組合を破壊していったからです。

二つ目の論点は国民の権利性はどうなったのかということについてご報告いただければと思います。

水流 国民の移動する権利というところではローカル線の問題がどうなってきたかというところですが、地域公共交通活性化再生法が施行され、九州では十路線12区間がバス転換の検討対象となつてい

ます。バス転換でいいのではありませんかという意見もあるとは思いますが、バス転換した地域では、乗り継ぎ本数の減少、バス運賃の値上げやバス運転手も不足していて持続的な

交通体系は維持できないと思つています。



城山氏

城山 福祉の現場では人権が守られない状況がこつていて、障害が重い人の報酬が高いので、とにかく重度者を入れて、経験もない人数も足りないところでは対応ができないので、部屋に閉じ込めておくという虐待がおこつています。

米地 郵政は採算重視になつて大量に郵便物を出すところの料金を優遇して、個人の負担はあがるといふ公平なサービスになつていないのが現状です。



米地氏

川村 ありがとうございます。本来提供したかったサービスが棄損されてしまつていて、その中で国民の権利侵害にまで発展している。それをこれからどう運動に発展させていくかが課題だと思いま

す。だから働き手とサービスの受け手が共同していくような取り組みが必要ではないかと思ひました。最後にパネラーの皆

さんからこれからどんな運動をするのかをお話いただきたいと思います。

水流 分割民営化が国民の立場にたつての政策だったかの検証が必要時期にきているかとおも

います。全国1社体制なら7379億円の赤字です。それから、きちんと内部補助でローカル線を維持させるというのが一番だと思ひます。クロスベン

フィットという考え方があつて、もし公共交通がなければほかの部門に多額の支出が発生するといふことから必要な投資と考えるべきであつて、私たちも頑張つていきたいと思ひます。

城山 一言でいうなら福祉でも儲けないといふことを徹底する。福祉はほとんどが人権費なのできちんと税金を使うといふ合意を得られたらいいと思ひます。

米地 格差をなくす、底辺労働者の賃上げ、郵政サービスの守るために地域住民とも共同した運動を広げていきたいと思ひます。



三浦氏

三浦 自治体はゆりかごから墓場までの非常に専

門的な分野をもつています。要求も千差万別、住民の階層によつていろいろありますので、分野別でいろんな運動を多彩に取り組んでいくことが必要だと思ひます。

玖村 過去の成功体験とは決別して新しいことを見つけていくことを心掛けながらですが、本当の意味で労働者が安定した雇用と適正な賃金が得られる、地域の人々には安全がもたらされる、こうした方向性を進めるための手段として公契約条例を進めていきたいと思ひます。

川村 新自由主義は全体的・体系的に進められていますから、それぞれの現場で起つていふことは非常に関連があるといふことが理解されたと思ひます。だからこそ我々も全体としてこの問題に立ち向かつていかなければならないといふことです。で、どこが主戦場になるのかというところ、やっぱりそれは問題が起つていふ現場であり、具体的には地域だと思ひます。私は北海道で公務の現場を中心に起きている問題を調べています。そういう運動を強めていけたらいいのではないと思ひます。